

町民のひろは。

自慢あれこれ

⑫ 模型モーターボート

田口武夫さん (上町第3)



友人の模型船にヒントを得て作ったというこのモーターボート(写真)は、長さ150cm、幅48cmの船体にオートバイのエンジン(水冷50ccに改造)を搭載したもので、製作費は約1万円。性能も高く、栗山川の試走では最高速度60kmを記録した。

手先の器用なことでは近所でも評判の田口さんは、今後の模型船作りについて「グラスファイバー等を使用して船体の軽量化を図り、もっと馬力アップを……」と抱負を語ってくれた。

東京見学のコース最後の国立科学博物館は昭和六年、お茶の水にあったものを今の上野につつしたものだそうです。自然・理工・物理など、あらゆる科学の分野にわたる日本でもただ一つの科学博物館を見学することができました。

動・植物については、実物ではなく製にしてパノラマ式に解りやすく展示してあります。気象・電気に関しては、一般知識から、進歩発達の様子や、いろいろな研究がまとめられています。



国立科学博物館を見学して

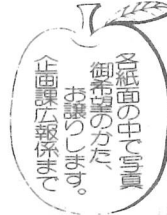
横芝小 井上裕治

体望遠鏡も備えられています。入り口近くに、大きなきょうりゅうの骨がありました。大きな口に、ぼくの上半身がそのまま入ってしまうようでした。

階段をのぼっていくところに、フーコーのふりがかりがありました。これはお兄さんが「よく見てこい」と言っていたので、目を丸くしてじっくりと見てきました。このふ

りこは地球が回っているから一日一周するのだそうです。長いろうかの先に別館の建物がありません。ここでの、みんなの興味は中心はミイラで、ぼくもはじめて見るミイラですが、一番いんしょうに残っています。小さい子どものミイラもありました。このようにみせものにされて、くる人くる人にじろじろと見られて、なんともかわいそうな感じがしました。またどうして大昔のままのすがたで残るのか本当にふしぎでたまりませんでした。また、別の階には、ゲイヤモン

ドやエメラルドなど、世界の宝石がならんでいます。ひとつひとつ進んでいくたびに、ぼくの知らない世界が次々とひろがり、おどろくことばかりの一時の見学でした。できればもう少しゆっくりとみたかったと思いますが、時間がなくてとても残念でした。見学はここで終わりましたが、友だちといっしょにすごした楽しい東京の一日でした。



横芝句会九月例会

土屋粟水
堰(えん)開けし水の平らや花すすき

石川奇水
蛸(ひぐらし)の笹に触れ落つ命かな

成田様子
単線をはさみ尾花の光り合う

宇井芝童
早天(かんでん)の芒(すすき)は呆けて咲きにけり

藤代ゆう
芒野をひとなでにしてジェット機発つ

鈴木南知
陸橋の上より望む芒原

安井ゆずる
かなかなに夕刊が来て庫裡の緑

佐久間実枝子
街中に芒原なす空地あり

佐久間久子
川向ういつしか薄(すすき)の穂の出でし

三枝句城
暁の蛸風をあらたにす

古谷紅雲
宵闇やつい長くなる立話

木下石果子
蛸や山を好みて山歩き

次回
日時 十一月十四日(火)
兼題 「時雨」「茶の花」